

記 事

消 息

2008 日中張仲景学説交流会シンポジウム

松岡尚則¹⁾，別府正志²⁾，頼 建守³⁾，山口秀敏⁴⁾

¹⁾ 静岡県立こども病院，

²⁾ 国立大学法人東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター，

³⁾ 新宿海上ビル診療所漢方センター， ⁴⁾ 信州医療福祉専門学校

平成20年(2008)11月23日(日曜日)東京サピアタワーを会場に、2008日中張仲景学説交流会シンポジウムが「日中両国における傷寒論研究三十年の歩み」を主題に開催された。昭和56年(1981)10年13日・14日に北京中医学院講堂にて「日中傷寒論シンポジウム」¹⁾が藤平健(理事，日本漢方医学研究所，[当時]) (敬称略)を日本側代表として開催されたが、この会以来、実に27年ぶりの開催となった。

最初に、日中双方の主催者グループと主な交流参加者の紹介が、秋葉哲生(客員教授，慶応義塾大学医学部，あきば伝統医学クリニック院長)，王慶国(教授，北京中医薬大学副学長，中華中医薬学会仲景学説分会主任委員)によって行われた。

会議は二部構成で開催された。第一部は日中各2名の演者による講演で、座長は安井広迪(客員教授，天津中医薬大学，安井医院院長)，李賽美(教授，広州中医薬大学傷寒論教室主任，中華中医薬学会仲景学説分会副秘書長)によって行われた。日本からは、小曾戸洋(教授，北里研究所東洋医学総合研究所)による「近年日本における張仲景医書出版の様相」という演題と、牧角和宏(元北陸大学薬学部東洋医学教室教授，現牧角内科クリニック院長)による「『宋板傷寒論』について」であった。中華人民共和国からは、王慶国(教授，北京中医薬大学副学長，中華中医薬学会仲景学説分会主任委員)による「最近30年来の中国張仲景学説に関する臨床的研究の概況」と



図1 日中双方の演者の方々

右から王慶国，小曾戸洋，何新慧，牧角和宏



図2 日中張仲景学説交流会シンポジウム会場

いう演題と何新慧（教授，上海中医薬大学傷寒論教室主任，中華中医薬学会仲景学説分会副主任委員）による「張仲景の陰陽調節理論に基づいた婦人科診療」という演題であった。

第二部は平馬直樹（講師，日本医科大学東洋医学科，平馬医院院長），姜徳友（教授，中華中医薬学会仲景学説分会副主任委員，黒竜江中医薬大学基礎医学院院長）を座長に，これら演題に対しての総合討論が行われた。この時，安井広迪より

中国側にリクエストがあり，次回以降，パンデミックについて，特に「スペイン風邪に対する治療」を発表して頂きたいとの希望が述べられた。

このシンポジウム会場の参加者は日中双方で約80名ほどであったが，「張仲景」について両国を代表するようなシンポジストの顔ぶれで，質疑応答ともに活発に行われた。専門的な内容が伴うような質疑応答があったが，全般としてスムーズな運営が行われた。このシンポジウムに対して作製された資料も日本語・中国語双方の言語に訳されており，事前の準備もたいへんであったと思われる。日中張仲景学説交流委員会，および，協賛の国際張仲景医学会日本支部，日中健康科学会，中華中医薬学会仲景学説分会，北京中医薬大学，広州中医薬大学，上海中医薬大学の方々の熱意と努力に感謝を申し上げ，労をねぎらいたい。

- 1) 日中傷寒論シンポジウム記念論集，中医臨床，1982，3(5)

例会記録

日本医史学会・日本歯科医史学会・日本薬史学会・
日本獣医史学会・日本看護歴史学会
合同12月例会 平成20年12月13日(土)

順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 明治21年磐梯山噴火における災害医療活動
川原由佳里
2. 歯科大学における医療倫理教育 関根 透
3. 馬醫の祖“伯楽”と“伯楽鍼経”の展開
亀谷 勉
4. 小島宝素家の医書研究と楊守敬の医書校刊
真柳 誠
5. マリー・キュリー夫人と放射能研究に殉じた
最初の日本人研究者・山田延男
——日仏修好150周年に因んで 山田光男

平成21年1月例会 平成21年1月24日(土)

順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. ナイチンゲール伝染病論の社会性 友松憲彦
2. 在ドイツ森林太郎あて書簡にみる帝国大学医
科大学事情 岡田靖雄